

氏名	高谷陽一
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5249号
学位授与の日付	平成27年12月31日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Long-Term Outcome After Transcatheter Closure of Atrial Septal Defect in Older Patients Impact of Age at Procedure (心房中隔欠損症に対するカテーテル閉鎖術は、高齢者において有用である)
--------	---

論文審査委員	教授 三好 新一郎 教授 光延 文裕 教授 王 英正
--------	----------------------------

学位論文内容の要旨

心房中隔欠損症 (atrial septal defect: ASD) に対するカテーテル閉鎖術が、高齢者において有用かどうか明らかではない。我々は、高齢者、特に75歳以上において、ASDカテーテル閉鎖術の長期予後を検討した。方法は、ASDカテーテル閉鎖術を施行した50歳以上の244例を3群(50-59歳: n = 69、60-74歳: n = 120、75歳以上: n = 55)に分類し、総死亡、心不全入院、脳血管障害の有無を検討した。ASDカテーテル閉鎖術後、中央値36か月の観察期間で、全244症例中、18例(7%)でイベントを認めた。75歳以上の群では5例(9%)でイベントを認め、心疾患以外の死亡2例、心不全入院2例、脳梗塞1例であった。Kaplan-Meier法を用いたイベントフリー生存曲線は3群間で有意差を認めず(log-rank test, p = 0.780)、75歳以上におけるASDカテーテル閉鎖術の長期予後は、比較的若年症例とほぼ同等であった。高齢者、特に75歳以上においても、ASDカテーテル閉鎖術は有用である可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は高齢者、特に75歳以上において、心房中隔欠損症 (ASD) に対するカテーテル閉鎖術の有効性を明らかにする目的で、術後の長期予後を検討したものである。本研究者は、ASDカテーテル閉鎖術を施行した50歳以上の244例を3群(50-59歳: n=69、60-74歳: n=120、75歳以上:n=55)に分類し、総死亡、心不全入院、脳血管障害の有無を検討した。ASDカテーテル閉鎖術後、中央値36ヶ月の観察期間で、全244症例中、18例(7%)でイベントを認めた。75歳以上の群では5例(9%)でイベントを認め、心疾患以外の死亡2例、心不全入院2例、脳梗塞1例であった。Kaplan-Meier法を用いたイベントフリー生存曲線は3群間で有意差を認めず(log-rank test, p=0.780)、75歳以上におけるASDカテーテル閉鎖術の長期予後は、比較的若年者症例とほぼ同等であった。以上、高齢者、特に75歳以上においてもASDカテーテル閉鎖術は有用である可能性を示唆する知見を得たことは価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める